



---

# 2017年3月期 第2四半期 決算説明会

---

2016年11月18日

南海電気鉄道株式会社

【証券コード 9044】

---

# 本日の内容

- 1. 2017年3月期 第2四半期決算の概要 ..... P2
- 2. 2017年3月期の業績予想 ..... P16
- 3. 中期経営計画「深展133計画」の進捗状況 ..... P22
- 参考資料 ..... P39





# 1. 2017年3月期 第2四半期決算の概要

# 2017年3月期 第2四半期決算の概要

## 1) 業績ハイライト

(単位:百万円・%)

	2015年9月期 (A)	2016年9月期 (B)	増減額 (B-A)	増減率	期初予想 (C)	増減額 (B-C)	増減率
営業収益	108,125	110,248	2,122	2.0	111,000	△751	△0.7
営業利益	17,900	17,693	△207	△1.2	16,000	1,693	10.6
経常利益	15,312	15,232	△79	△0.5	13,400	1,832	13.7
親会社株主に帰属する 四半期純利益	10,531	9,614	△917	△8.7	8,200	1,414	17.2

### <主な増減理由等:前年同期比>

営業収益	インバウンド旅客の増加による空港関連輸送の好調（鉄道空港線収入 第2四半期として過去最高）、マンション販売収入の増加、建設業における増収
営業利益	増収の一方、退職給付債務の割引率引き下げによる費用の増加や、車両新造に伴う減価償却費の増加の影響もあり減益
経常利益	有利子負債削減により支払利息が減少したものの、営業減益に伴い減益
親会社株主に帰属する四半期純利益	なんばCITY南館リニューアル工事に伴う固定資産除却損の計上等により減益

### <主な増減理由等:期初予想比>

不動産業でのリフォーム工事収入の減少等による減収の一方で、運輸業での動力費・燃料費や減価償却費の減少等により、営業増益

# 2017年3月期 第2四半期決算の概要

## 2) 資産、負債及び純資産の状況

(単位:百万円)

	2016年3月末	2016年9月末	増減額	主な増減理由
流動資産	79,575	78,507	△1,067	●流動資産 受託工事代金の回収による未収金の減少 △13億円
固定資産	815,045	793,701	△21,344	●固定資産 南海会館ビル建替等の設備投資 +106億円、 減価償却の進捗 △127億円、 高石市内連続立体交差化工事等に伴う工事負担金等 圧縮損の計上 △215億円
資産合計	894,621	872,209	△22,412	
負債合計	690,681	661,835	△28,846	●負債 借入金及び社債の削減 △39億円 高石市内連続立体交差化工事竣工等に伴う 前受金の減少 △166億円
純資産	203,939	210,373	6,433	●純資産
負債純資産合計	894,621	872,209	△22,412	親会社株主に帰属する四半期純利益 +96億円、 2016年3月期配当金支払 △34億円 (1株あたり6円)
有利子負債残高	484,160	480,162	△3,998	借入金の返済による減少

# 2017年3月期 第2四半期決算の概要

## 3) キャッシュ・フローの状況

(単位:百万円)

	2015年9月期	2016年9月期	増減額	主な増減理由
営業活動による キャッシュ・フロー	16,240	17,021	780	●営業活動によるキャッシュ・フロー 税金等調整前四半期純利益 △13億円 減価償却費の増加 +3億円 仕入債務の増減 +10億円
投資活動による キャッシュ・フロー	△11,047	△10,659	388	●投資活動によるキャッシュ・フロー 連結範囲変更を伴う子会社株式の取得 +22億円 (前期) (株)大阪府食品流通センター △25億円 (当期) (株)TTS、ライフコミュニティ(株) △2億円 固定資産の取得 +8億円 (前期)△162億円 (当期)△153億円
財務活動による キャッシュ・フロー	△7,799	△7,768	30	工事負担金等受入による収入 △14億円 (前期)50億円 (当期)64億円
現金及び現金 同等物の期末残高	18,553	16,950	△1,603	●財務活動によるキャッシュ・フロー (当期) 借入金 △40億円 社債 発行収入99億円、償還支出△200億円 コマーシャルペーパー 発行収入 100億円 配当金支払 △33億円

# セグメント別の状況(2017年3月期 第2四半期)

## セグメントの構成状況 (2016年9月末現在)

【連結子会社58社・非連結子会社12社・関連会社7社(うち持分法適用会社2社)】

増減(対 2016年3月末)

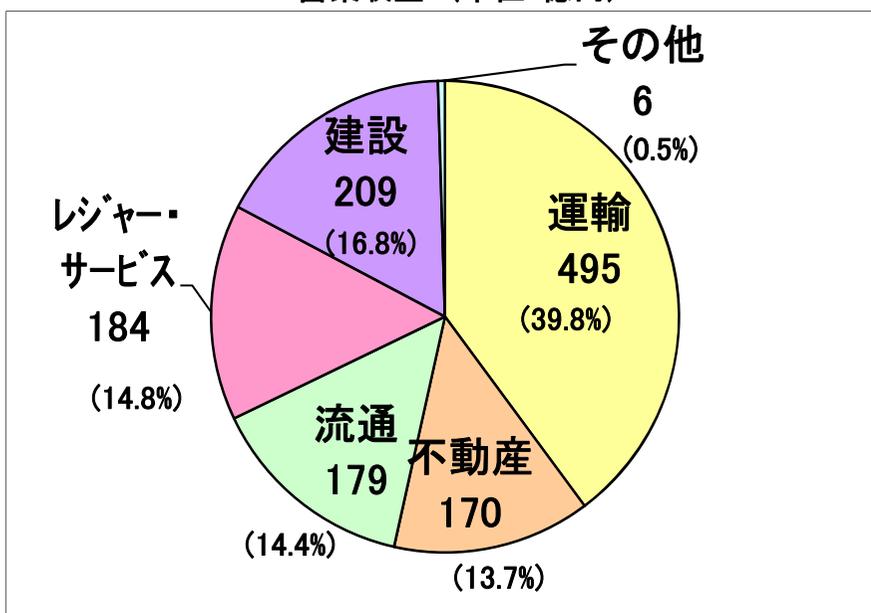
連結子会社の増加 2社 : (株式取得) (株)TTS、ライフコミュニティ(株)

連結子会社の減少 2社 : (グループ内合併) インターホリデイ(株)、南海電設(株)

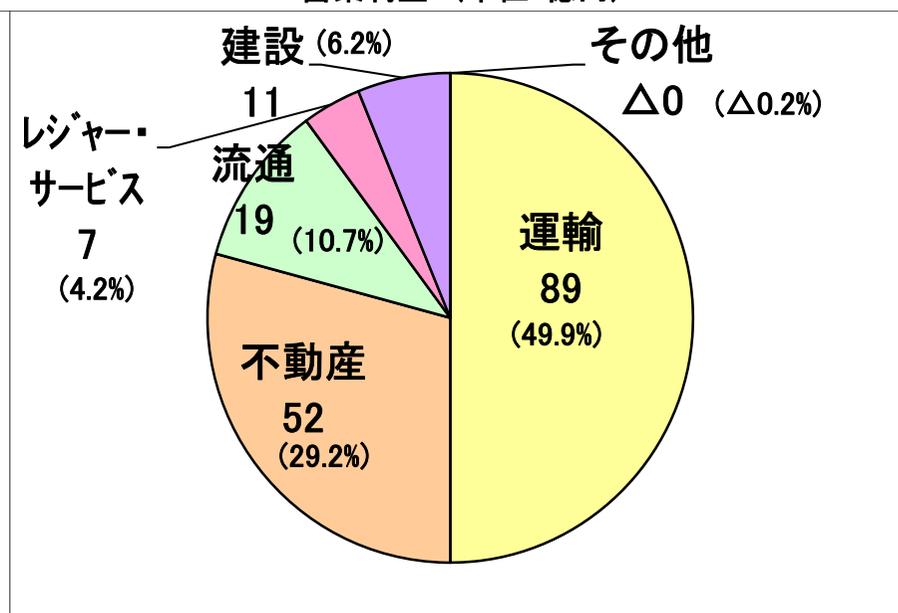
運輸業 (34社)	不動産業 (5社)	流通業 (11社)	レジャー・サービス業 (23社)	建設業 (5社)	その他の事業 (4社)
--------------	--------------	--------------	---------------------	-------------	----------------

※当社は運輸業、不動産業、流通業、レジャー・サービス業に、泉北高速鉄道株式会社は運輸業と不動産業に重複して含まれております。

営業収益 (単位:億円)



営業利益 (単位:億円)



# セグメント別の状況(2017年3月期 第2四半期)

## 1)セグメント別営業収益

(単位:百万円・%)

	2015年9月期	2016年9月期	増減額	増減率
運 輸 業	49,359	49,522	162	0.3
不 動 産 業	16,548	17,048	499	3.0
流 通 業	17,648	17,943	295	1.7
レジャー・サービス業	17,984	18,425	441	2.5
建 設 業	18,317	20,948	2,630	14.4
そ の 他 の 事 業	656	635	△21	△3.2
調 整 額	△12,389	△14,275		
合 計	108,125	110,248	2,122	2.0

# セグメント別の状況(2017年3月期 第2四半期)

## 2)セグメント別営業利益

(単位:百万円・%)

	2015年9月期	2016年9月期	増減額	増減率
運 輸 業	9,488	8,911	△576	△6.1
不 動 産 業	5,427	5,220	△206	△3.8
流 通 業	1,760	1,909	148	8.4
レジャー・サービス業	686	755	69	10.1
建 設 業	554	1,103	549	99.1
そ の 他 の 事 業	△32	△40	△7	—
調 整 額	15	△167		
合 計	17,900	17,693	△207	△1.2

# セグメント別の状況(2017年3月期 第2四半期)

## 3) 運輸業の実績 (増収減益)

(単位:百万円・%)

	2015年9月期	2016年9月期	増減額	増減率	主な増減理由
鉄道事業	33,340	33,922	581	1.7	<p>●鉄道事業 空港線が定期・定期外ともに寄与し増収の一方、割引率見直しによる退職金費用や車両新造に伴う減価償却費の増加により減益</p> <p>(増収内訳) 空港線 +6億円 前年の高野山開創1200年関連の反動 △1億円</p> <p>●バス事業 単価下落による燃料販売収入の減少や、前年の高野山開創1200年関連の反動等による減収に加え、減価償却費の増加もあり、減益</p> <p>●海運業 前年の高野山開創1200年関連の反動による減収</p> <p>●車両整備業 単価下落による燃料販売収入の減少</p>
軌道事業	762	748	△14	△1.9	
バス事業	13,096	12,969	△127	△1.0	
海運業	1,088	987	△100	△9.3	
貨物運送業	1,892	1,901	9	0.5	
車両整備業	1,854	1,737	△117	△6.3	
調整額(セグメント内)	△2,675	△2,744			
営業収益	49,359	49,522	162	0.3	
営業利益	9,488	8,911	△576	△6.1	
主な内訳	鉄道事業	7,453	7,077	△375	
	バス事業	1,887	1,629	△257	△13.7

# セグメント別の状況(2017年3月期 第2四半期)

## 鉄道旅客収入と輸送人員表(個別)

(単位:百万円・千人・%)

全 線		2015年9月期	2016年9月期	増減率	期初予想	増減率
旅客収入	定期外	16,751	17,266	3.1	17,208	0.3
	定期	11,367	11,409	0.4	11,399	0.1
	合計	28,119	28,676	2.0	28,608	0.2
輸送人員	定期外	46,927	48,039	2.4	48,403	△0.8
	定期	71,486	71,802	0.4	71,708	0.1
	合計	118,413	119,841	1.2	120,111	△0.2

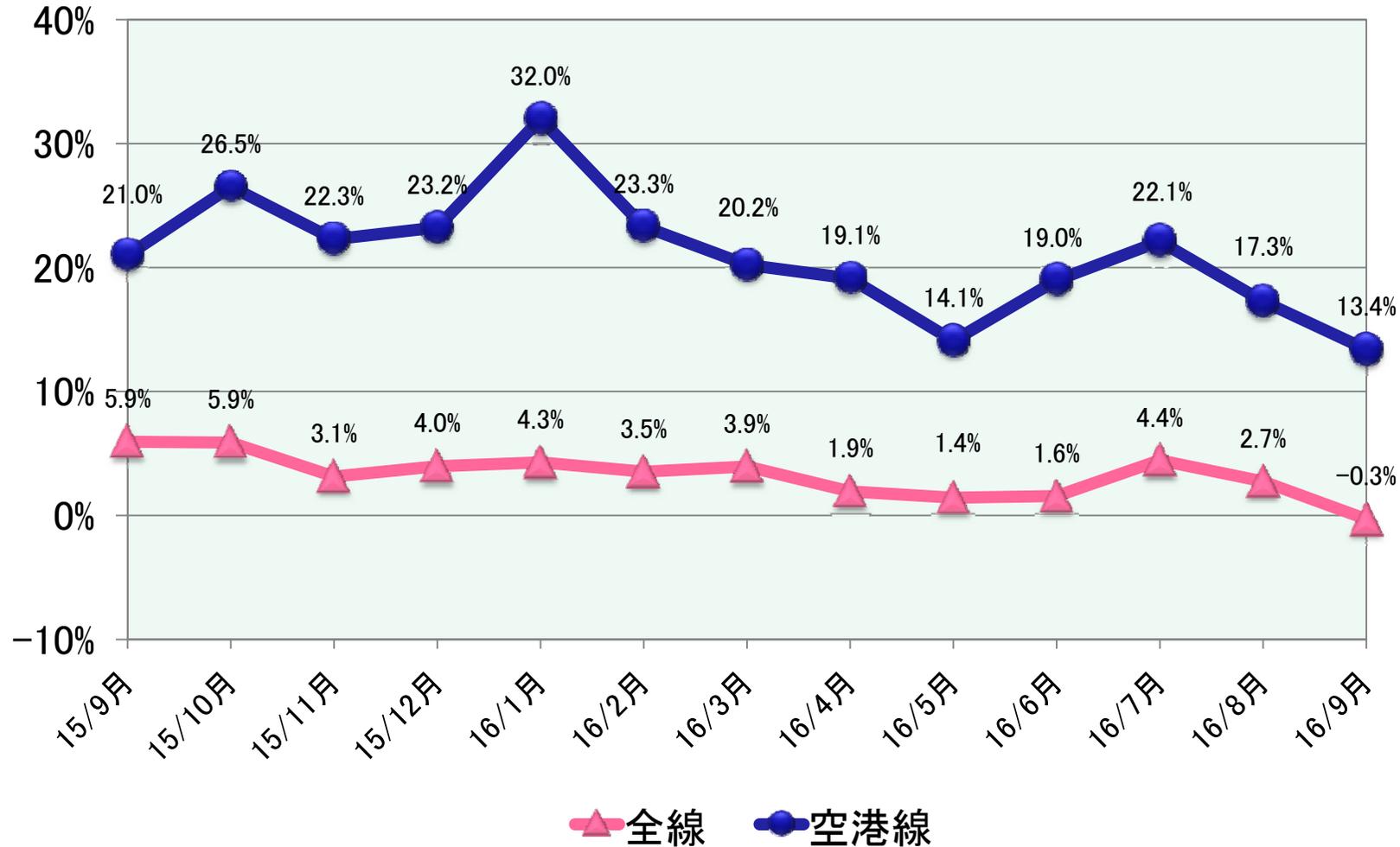
(単位:百万円・千人・%)

空港線		2015年9月期	2016年9月期	増減率	期初予想	増減率
旅客収入	定期外	3,053	3,643	19.3	3,422	6.5
	定期	619	671	8.4	635	5.7
	合計	3,672	4,315	17.5	4,057	6.3
輸送人員	定期外	3,865	4,580	18.5	4,361	5.0
	定期	1,976	2,130	7.8	2,029	5.0
	合計	5,841	6,710	14.9	6,390	5.0

# セグメント別の状況(2017年3月期 第2四半期)

## 【参考】 鉄道旅客収入 前年同月比増減率の推移

前年同月比  
増減率



# セグメント別の状況(2017年3月期 第2四半期)

## 4) 不動産業の実績 (増収減益)

(単位:百万円・%)

	2015年9月期	2016年9月期	増減額	増減率	主な増減理由	
不動産賃貸業	12,690	12,597	△93	△0.7	●不動産賃貸業 賃貸ビルにおけるテナント退去の影響により減収・減益	
不動産販売業	3,926	4,686	760	19.4		
調整額(セグメント内)	△68	△235			●不動産販売業 マンション販売の増加による増収・増益	
営業収益	16,548	17,048	499	3.0	マンション販売実績	
営業利益	5,427	5,220	△206	△3.8	(当期)31億円 ヴェリテ河内長野 ヴェリテ洛西口アデレイド ほか	
主な 内 訳	不動産賃貸業	5,500	5,382	△117	△2.1	(前期)23億円 ヴェリテ洛西口駅前 ブランド・ヴェリテ堺七道 ほか
	不動産販売業	54	69	14	25.8	

# セグメント別の状況(2017年3月期 第2四半期)

## 5) 流通業の実績 (増収増益)

(単位:百万円・%)

	2015年9月期	2016年9月期	増減額	増減率	主な増減理由
ショッピングセンターの経営	7,140	7,490	350	4.9	<b>●ショッピングセンターの経営</b> なんばCITY +3億円(増益+約2億円) (今春のリニューアルによる売上増) 泉ヶ丘駅前商業施設(泉ヶ丘ひろば 専門店街) +約1億円(減益△0億円) (今春のリニューアルによる賃料収入 増加の一方で、修繕費・除却費 等リニューアル関連費用の発生に による減益)
駅ビジネス事業	10,728	10,661	△66	△0.6	
その他	1,313	1,339	26	2.0	
調整額(セグメント内)	△1,533	△1,548			
営業収益	17,648	17,943	295	1.7	<b>●駅ビジネス事業</b> コンビニ事業の売上減少による減収 △1億円
営業利益	1,760	1,909	148	8.4	
主な内訳					
ショッピングセンターの経営	1,170	1,353	183	15.7	
駅ビジネス事業	597	559	△38	△6.4	

# セグメント別の状況(2017年3月期 第2四半期)

## 6) レジャー・サービス業の実績 (増収増益)

(単位:百万円・%)

	2015年9月期	2016年9月期	増減額	増減率	主な増減理由
遊園事業	823	665	△157	△19.2	<p>●ボートレース施設賃貸業 舟券売上好調(電話投票等)による増収</p> <p>●ビル管理メンテナンス業 首都圏でのマンション管理事業など、M&amp;Aによる連結子会社増加に伴う増収(約2億円)のほか、ビルメンテナンス業における新規受託等による増収(約3億円)もあり、増収・増益</p>
旅行業	1,022	998	△23	△2.3	
ホテル・旅館業	652	624	△27	△4.3	
ボートレース施設賃貸業	2,286	2,399	113	4.9	
ビル管理メンテナンス業	10,711	10,976	265	2.5	
葬祭事業	1,160	1,154	△6	△0.5	
その他	2,466	2,629	162	6.6	
調整額(セグメント内)	△1,138	△1,022			
営業収益	17,984	18,425	441	2.5	
営業利益	686	755	69	10.1	
主な 内訳	ビル管理メンテナンス業	324	363	39	12.1

# セグメント別の状況(2017年3月期 第2四半期)

## 7) 建設業の実績 (増収増益)

(単位:百万円・%)

	2015年9月期	2016年9月期	増減額	増減率	主な増減理由
建設業	18,324	20,980	2,655	14.5	前期繰越工事高の増加による増収や原価率の改善による増益
調整額(セグメント内)	△6	△31			
営業収益	18,317	20,948	2,630	14.4	
営業利益	554	1,103	549	99.1	

## 8) その他の事業の実績 (減収減益)

(単位:百万円・%)

	2015年9月期	2016年9月期	増減額	増減率	増減理由
その他	658	637	△21	△3.2	
調整額(セグメント内)	△1	△1			
営業収益	656	635	△21	△3.2	
営業利益	△32	△40	△7	—	



## 2. 2017年3月期の業績予想

# 2017年3月期の業績予想

## 1) 業績ハイライト

(単位:百万円)

	2017年3月期			主な差異理由 (B-A)	2016年 3月期 実績(C)	差異 (B-C)
	期初予想 (A)	修正予想 (B)※1	差異 (B-A)			
営業収益	225,500	223,300	△2,200	●営業収益 消費増税の延期による鉄道事業での先買い需要の減少や、マンション販売の翌期への繰越等により減収	219,065	4,234
営業利益	31,700	30,800	△900		32,318	△1,518
経常利益	26,600	26,300	△300		27,110	△810
親会社株主に帰属する当期純利益	17,000	16,700	△300	●営業利益・経常利益 減収による減益のほか、販売用不動産の評価損の増加等により減益	12,612	4,087
投資額	56,100	56,200	100	●減価償却費 工事竣工時期の変更等による減少	29,685	26,514
減価償却費	26,600	26,000	△600		25,519	480
EBITDA※2	58,300	56,800	△1,500	●有利子負債残高 資金運用の効率化による削減	57,838	△1,038
有利子負債残高	491,200	490,200	△1,000		484,160	6,039
有利子負債残高／EBITDA倍率	8.4倍	8.6倍			8.4倍	

※1 修正予想(B)は2016年10月31日時点の数値

※2 EBITDA=営業利益+減価償却費

# 2017年3月期の業績予想

## 2) セグメント別営業収益

(単位:百万円)

	2017年3月期			主な差異理由 (B-A)	2016年 3月期 実績(C)	差異 (B-C)
	期初予想 (A)	修正予想 (B)※1	差異 (B-A)			
運 輸 業	99,900	99,500	△400	<ul style="list-style-type: none"> <li>●運輸業 鉄道事業△4億円 (空港線+5億円、消費増税延期による△5億円ほか)</li> <li>バス事業△1億円 (単価下落による燃料販売収入の減)</li> <li>●不動産業 不動産販売業△5億円(マンション販売の翌期へ繰越)</li> <li>●レジャー・サービス業 ビル管理メンテナンス業 +6億円(M&amp;A効果の通期寄与や工事収入の増加)</li> <li>●建設業 完成工事高の減少</li> </ul>	98,729	770
不 動 産 業	34,900	34,400	△500		33,744	655
流 通 業	35,900	36,000	100		35,200	799
レジャー・サービス業	39,200	39,900	700		38,863	1,036
建 設 業	43,500	43,100	△400		44,830	△1,730
その他の事業	2,200	2,400	200		1,825	574
調 整 額	△30,100	△32,000			△34,128	
合 計	225,500	223,300	△2,200	219,065	4,234	

※1 修正予想(B)は2016年10月31日時点の数値

# 2017年3月期の業績予想

## 3) セグメント別営業利益

(単位:百万円)

	2017年3月期			主な差異理由 (B-A)	2016年 3月期 実績(C)	差異 (B-C)
	期初予想 (A)	修正予想 (B)※1	差異 (B-A)			
運 輸 業	16,100	16,200	100	<ul style="list-style-type: none"> <li>●運輸業 鉄道事業+3億円 (減収の一方、工事竣工時期の変更に伴う減価償却費△5億円、動力費△2億円等による増益)</li> <li>●不動産業 不動産販売業△9億円 (評価損の増加等)</li> <li>●建設業 利益率向上により増益</li> </ul>	16,500	△300
不 動 産 業	9,600	8,600	△1,000		9,379	△779
流 通 業	3,000	3,000	0		3,163	△163
レジャー・ サービス業	1,700	1,700	0		1,841	△141
建 設 業	1,500	1,700	200		1,946	△246
その他の事業	100	100	0		123	△23
調 整 額	△300	△500			△636	
合 計	31,700	30,800	△900		32,318	△1,518

※1 修正予想(B)は2016年10月31日時点の数値

# 2017年3月期の業績予想

## 4) セグメント別投資額・EBITDA

(単位:百万円)

	投資額				EBITDA		
	2017年3月期			修正予想額 主な内訳	2017年3月期		
	期初予想	修正予想 ※1	差異		期初予想	修正予想 ※1	差異
運輸業	19,000	18,800	△200	<収益拡大投資 360億円> ・なんばエリア増収 130億円 南海会館ビル建替計画、 なんばパークスリニューアル等 ・成長投資 114億円 不動産物件取得等 ・沿線エリア活性化等 64億円 和歌山市駅活性化計画、 泉大津高架下開発等 <安全・更新投資 202億円> ・鉄道関連工事 89億円 車両新造、高架橋耐震工事等 ・不動産・流通既存施設工事 41億円 なんばCITY・なんばパークス 既存施設更新工事等 ・その他 バス車両更新等 <M&A 3億円> ビルメンテナンス会社株式取得等	31,000	30,600	△400
不動産業	29,000	28,900	△100		15,500	14,600	△900
流通業	7,500	7,900	400		7,600	7,500	△100
レジャー・サービス業	1,800	1,800	0		3,400	3,300	△100
建設業	100	200	100		1,600	1,800	200
その他の事業	0	0	0		100	100	0
調整額	△1,200	△1,400			△900	△1,100	
合計	56,100	56,200	100		58,300	56,800	△1,500
M & A	300	300	0				
M & A含む計	56,500	56,500	0				

※1 修正予想は2016年10月31日時点の数値

# 2017年3月期の業績予想

## 5) 運輸業 鉄道旅客収入と輸送人員表(個別)

(単位:百万円・千人・%)

全線		2016年3月期 実績	対前年 増減率	2017年3月期 期初予想	対前年 増減率	2017年3月期 修正予想※1	対前年 増減率
旅客収入	定期外	33,611	7.6	34,750	3.4	34,655	3.1
	定期	22,300	0.2	22,640	1.5	22,443	0.6
	合計	55,911	4.6	57,391	2.6	57,099	2.1
輸送人員	定期外	94,419	6.8	97,862	3.6	96,392	2.1
	定期	138,882	0.2	141,245	1.7	139,639	0.5
	合計	233,301	2.8	239,107	2.5	236,031	1.2

(単位:百万円・千人・%)

空港線		2016年3月期 実績	対前年 増減率	2017年3月期 期初予想	対前年 増減率	2017年3月期 修正予想※1	対前年 増減率
旅客収入	定期外	6,456	26.2	7,158	10.9	7,598	17.7
	定期	1,243	7.5	1,299	4.5	1,372	10.4
	合計	7,699	22.7	8,458	9.9	8,971	16.5
輸送人員	定期外	8,128	26.9	9,136	12.4	9,583	17.9
	定期	3,957	7.7	4,145	4.8	4,342	9.7
	合計	12,085	19.9	13,281	9.9	13,925	15.2

※1 修正予想は2016年10月31日時点の数値



### **3. 中期経営計画「深展133計画」 (2016年3月期～2018年3月期)の進捗状況**

# 深展133計画の基本方針と数値目標

## 最終年度(2018年3月期)数値目標を修正

### <基本方針>

1. 泉北関連事業の強化
2. 関空・インバウンド事業の拡大
3. なんばエリアの求心力向上

### <継続して取り組む重点項目>

1. 沿線エリアの魅力創造

2. グループ経営基盤の強化

### <最終年度(2018年3月期)数値目標>

	(当初)	(2016年10月修正)
①連結営業利益	300億円	330億円
②連結有利子負債残高／EBITDA倍率	8.8倍	7倍台
【参考】ROE	7.1%	8.5%

# 定量目標

## 連結営業利益

- 外部環境の変化に対し、自律的な成長の実現を通じて耐久力を高めることを目指し、最終年度に330億円の目標を設定。



## 連結有利子負債／EBITDA倍率

- 収益拡大及び資金効率の向上による財務体質の改善を目指し、7倍台の目標を設定。



# 2017年3月期 第2四半期 総括及び今後の方向性

## 2017年3月期 第2四半期総括

- ◆インバウンド旅客の継続的拡大と取り込み策の効果で空港線は順調に推移
- ◆泉北関連で鉄道の輸送シェアが順調に拡大、物流事業では北大阪流通センターの新管理棟が計画通り竣工
- ◆新南海会館ビルのテナントリーシング・工事とも順調に進捗

## 今後の方向性

- ◆インバウンドのスタイル変化を踏まえた取り込み施策の立案・注力
- ◆継続的な鉄道輸送シェア拡大策の展開と物流開発計画の決定
- ◆新南海会館ビルのテナントリーシングと工事の推進

# 泉北関連事業の強化(1/3)

## 泉北エリアの活性化と収益向上(輸送サービスの利便性・快適性向上)

### 2017年3月期 第2四半期

#### ○運賃値下げ(15年3月)

##### ・ダイヤ改正(15年12月)の効果

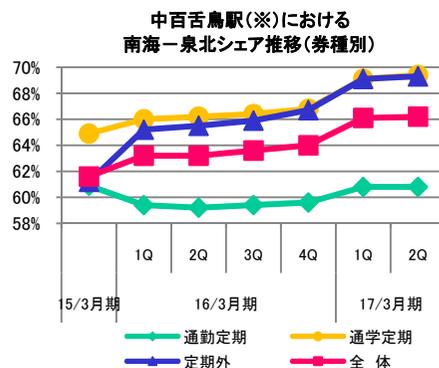
- ・中百舌鳥駅(※)における地下鉄からの転移増加により  
対前期で増収を見込む
- ・特急利用は徐々に浸透中

(単位:億円)

	16/3期 (対15/3期)	17/3期(対16/3期)	
		2Q実績	通期見通
<b>定期外</b>	<b>△0.6</b>	<b>1.2</b>	<b>1.7</b>
乗割拡大	△5.2	-	-
定期からの転移	2.6	0.5	0.7
他社線からの転移	2.0	0.7	1.0
<b>定期</b>	<b>△5.1</b>	<b>△0.6</b>	<b>△0.9</b>
通学定期値下げ	△2.1	-	-
定期外への転移	△3.0	△0.6	△0.9
他社線からの転移	-	0.1	0.1
<b>料金</b>	<b>0.3</b>	<b>0.6</b>	<b>1.2</b>
<b>合計</b>	<b>△5.3</b>	<b>1.2</b>	<b>2.1</b>

#### ○泉ヶ丘駅前施設「泉ヶ丘ひろば専門店街」の リニューアル実施

- ・延床面積 約54千㎡(うち賃貸面積 約12千㎡、90区画)
- ・投資額 約7億円(耐震工事含む) ・稼働率 92%
- ・新店の売上好調等により上期営業収益が前年比116%、  
リニューアル後もイベント開催等により継続的に賑わい創出



※中百舌鳥駅にて南海高野線・泉北線が接続、大阪市営地下鉄御堂筋線への乗換が可能(P.41 沿線マップ参照)

### 今後の取組み

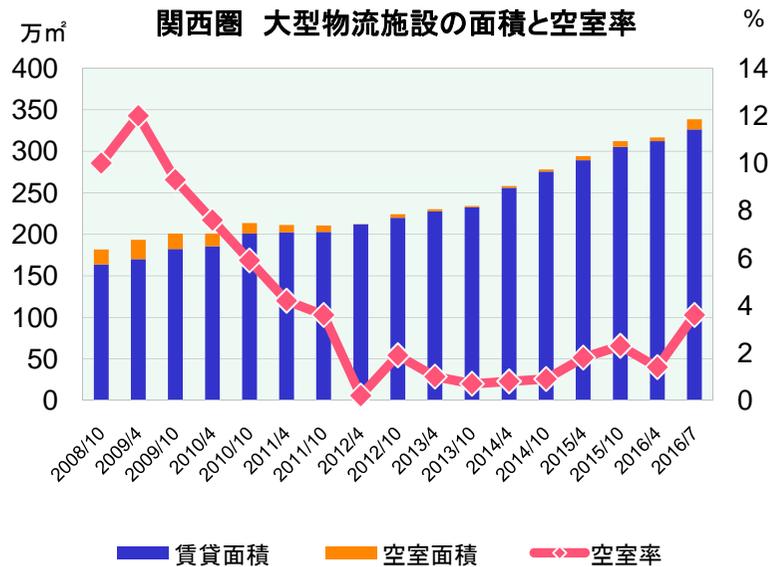
- ・継続的なダイヤ改正等による輸送シェアの拡大とシナジー創出策の実施
- ・泉北NTまちびらき50周年を契機とした駅、商業施設リニューアルの推進
- ・近畿大学医学部及び附属病院移転(2023年)を見据えた泉ヶ丘活性化計画の検討

# 泉北関連事業の強化(2/3)

## 物流事業の外部環境

### ○外部環境

- ・関西圏では大型物流施設の稼働率が高水準で推移
- ・17/3期～19/3期に大阪湾岸部及び新名神高速周辺部等内陸部で大型施設の大量供給が計画  
(17/3期:約61万㎡、18/3期:約90万㎡、19/3期:約42万㎡)
- ・直近では若干の空室率上昇はあるが、通販事業者の進出等で供給施設は概ね順調に消化



出典: (左表) ㈱一五不動産情報サービス 調査レポートに基づき弊社作成  
(右図) 月刊ロジスティクス・ビジネス2016年10月号(ライノス・パブリケーションズ)に基づき弊社作成

### ○当社グループ施設の強み

- ・高速ICに近く大阪都心部へのアクセスも良好で輸送効率に優れる
- ・湾岸部や北部に比べ人口集積が高く雇用環境に優れる
- ・法律で定められた物流専用エリアにあり通年24時間稼働が可能
- ・広い敷地を有し、効率性に優れた大型物流施設の整備が可能

物流施設の新規供給計画マップ(~19/3期)



北大阪流通センター		東大阪流通センター	
敷地面積	27.2万㎡ (甲子園球場: 7.1個分)	敷地面積	18.8万㎡ (甲子園球場: 4.9個分)
稼働率	97.0%	稼働率	100%

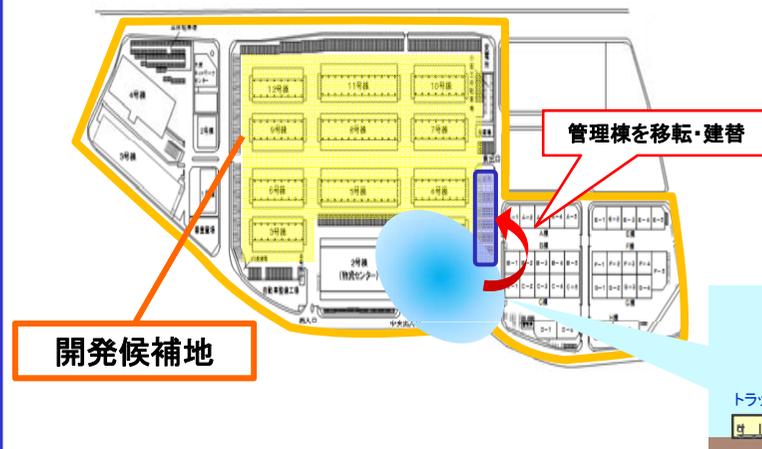
# 泉北関連事業の強化(3/3)

グループシナジー(物流事業の収益基盤向上、効率化の推進)

2017年3月期 第2四半期

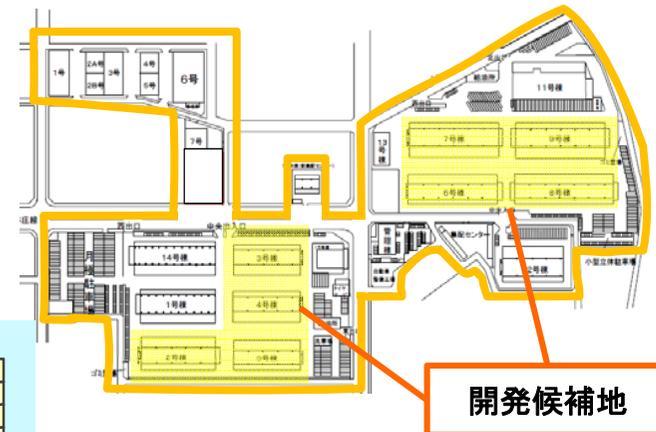
## ○北大阪流通センター 管理棟の移転

- ・高度化施設の開発用地創出のため、管理棟を縮小移転  
(16年8月竣工、延床面積1,821㎡、事業費約9億円)



## ○東大阪流通センター

- ・高稼働率を維持



## 今後の取組み

- ・両センターの全体開発計画の策定
- ・北大阪流通センター: 旧管理棟建物の撤去等への事業着手に向けた準備を進める
- ・東大阪流通センター: 開発に必要なタネ地の確保に努める

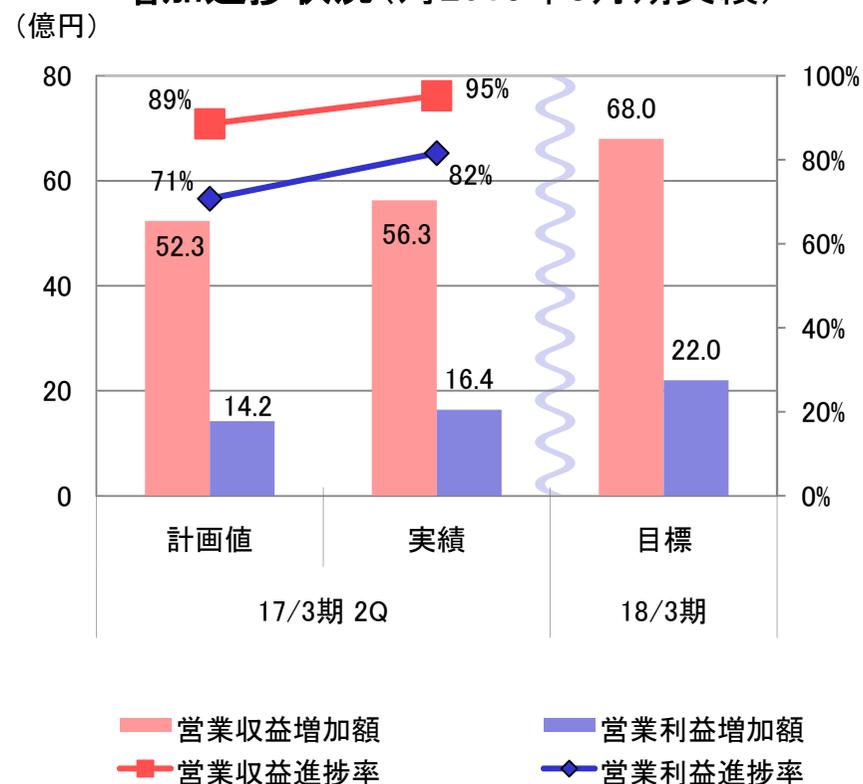
# 泉北関連事業の強化 進捗

数値目標の進捗状況 計画値を上回る



※1 泉北関連事業  
泉北高速鉄道グループ事業(鉄道事業、物流事業、流通事業)、  
南海電鉄鉄道事業(泉北高速との相互直通運転分)、泉ヶ丘駅前商業施設等  
※2 15年3月期実績では、泉北高速鉄道グループを第2四半期より連結子会社化

泉北関連事業 営業収益・営業利益  
増加進捗状況(対2015年3月期実績)

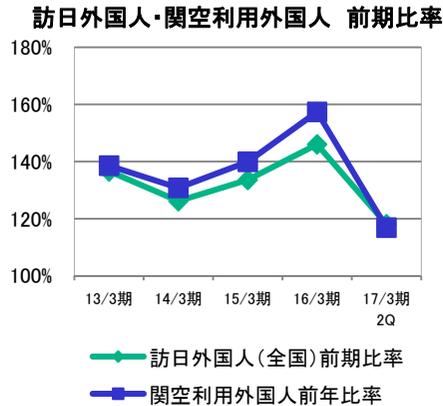


# 関空・インバウンド事業拡大(1/2)

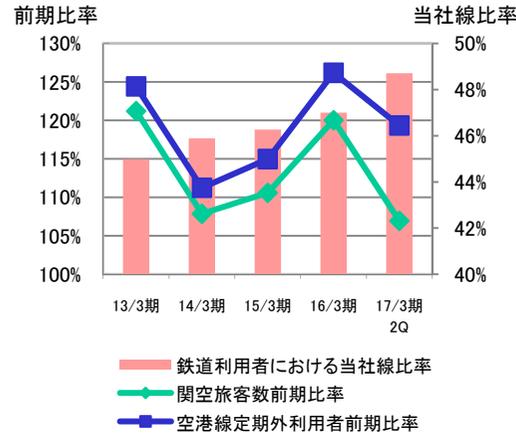
## 関空⇄なんばエリアへの送客強化

### 2017年3月期 第2四半期

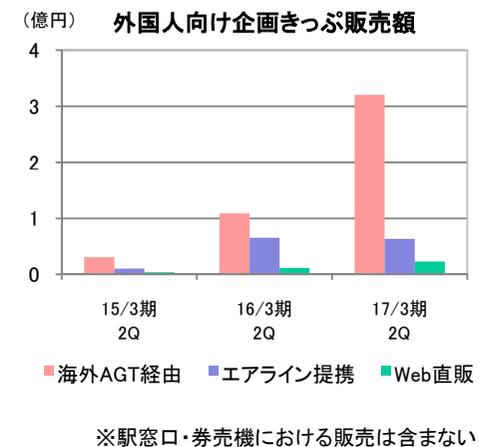
○関西空港利用外国人の増加  
伸び率は一服も、増加傾向を継続



○当社空港線の利用者増加  
鉄道シェア、対JRシェアの向上により  
関空利用者数の増加率を上回る



○外国人向けきっぷ販売増  
海外AGT、エアライン提携、WEB直販等  
販路拡大により販売増



出典：日本政府観光局、近畿運輸局、関西エアポート(株)の資料に基づき弊社作成

### 今後の取組み

・海外AGTやエアライン提携等の販路拡大と高野山等沿線観光資源への誘致策の強化

# 関西・インバウンド事業拡大(1/2)

## 関西国際空港の利用者増への対応

### 2017年3月期 第2四半期

#### ○関西国際空港 第2ターミナル(国際線)

- ・2017年1月にLCC国際線専用ターミナルが開業予定  
(既存第2ターミナルはLCC国内線専用化)
- ・開業により第2ターミナルの処理能力が倍増

	旧第2ターミナル	新第2ターミナル (国際線+国内線)
敷地面積	30,000㎡	66,000㎡
処理能力	400万人/年	国際線 285万人/年 国内線 550万人/年
搭乗ゲート数	10ゲート	21ゲート

出典:関西エアポート(株) プレスリリースに基づき弊社作成



#### ○空港線ダイヤ改正の実施

第2ターミナル(国際線)開業に合わせてダイヤ改正を実施

- ー輸送力の増強 +約10%

既存車両の効率的運用により、  
昼間時間帯での空港急行の長編成化(6両⇒8両)

- ー早朝・深夜便の増発

平日ダイヤ: 空港急行 早朝1本・深夜2本、ラピート 深夜1本

- ー最終列車発車時刻の繰下げ



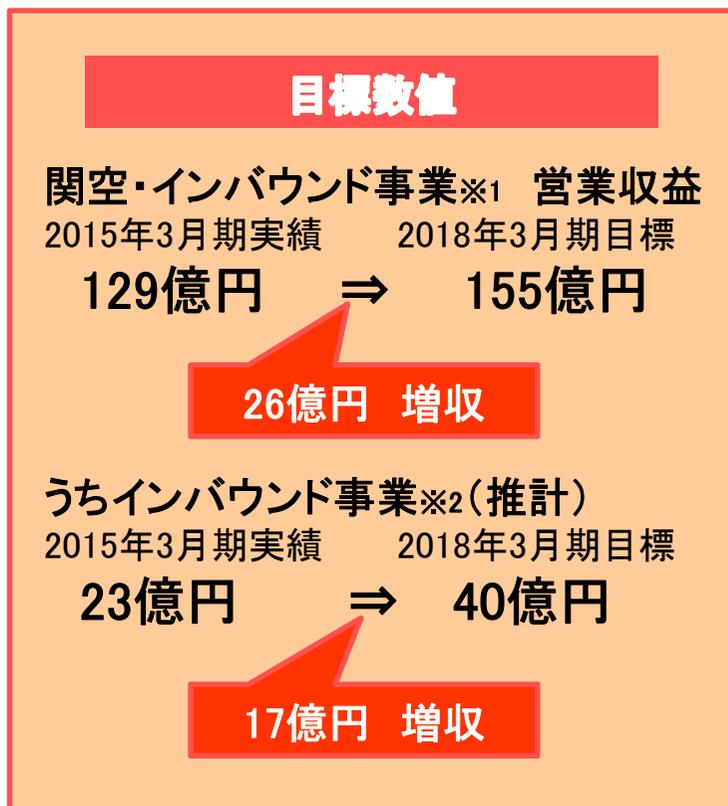
弊社関西空港駅チケットカウンター前の様子

### 今後の取組み

- ・多言語表示、放送の拡充や車内混雑緩和策の実施による利便性・快適性の向上

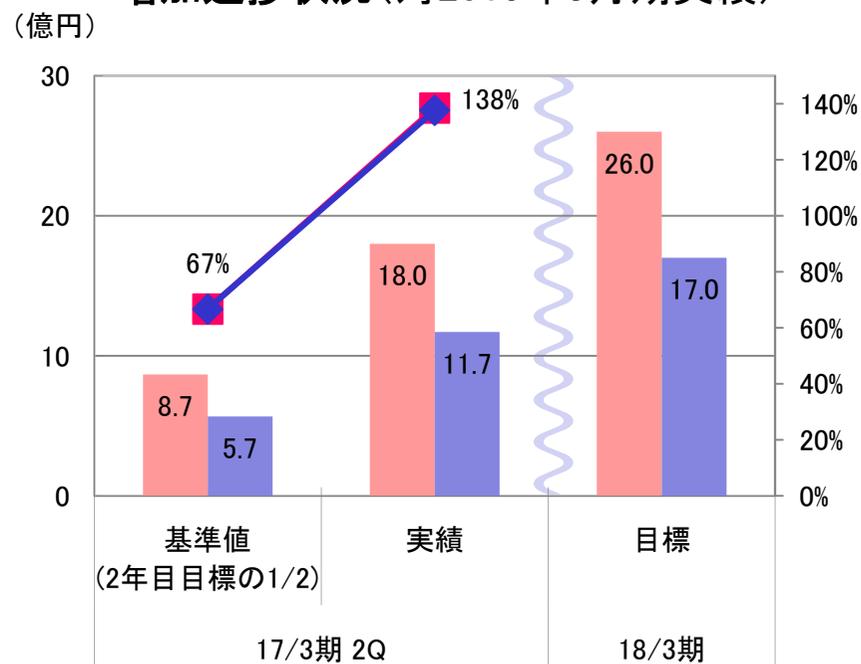
# 関空・インバウンド事業拡大 進捗

数値目標の進捗状況 基準値を大きく上回る



※1 関空・インバウンド事業  
 鉄道事業(空港線)、リムジンバス事業、関空島内バス事業、流通事業、  
 サービスアパートメント事業、関空島内設備管理・施設運営受託事業等  
 ※2 インバウンド事業  
 上記のうち外国人による収益(当社推計)

関空・インバウンド事業 営業収益  
 増加進捗状況(対2015年3月期実績)



■ 関空・インバウンド事業 営業収益増加額  
 ■ うちインバウンド事業 営業収益増加額  
 ■ 関空・インバウンド事業 進捗率  
 ◆ インバウンド事業 進捗率

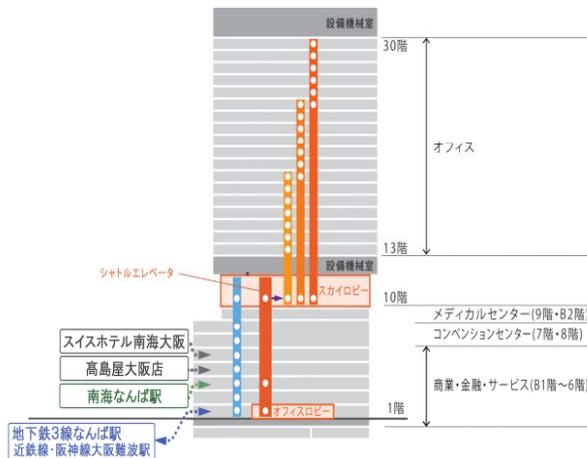
# なんばエリアの求心力向上(1/2)

## 南海会館ビル建替計画の推進

2017年3月期 第2四半期

### ○南海会館ビル建替計画の進捗

- ・商業、サービスエリア(低層階)のリーシングが順調に進捗
- ・工事も計画通りに進行



建築概要	
階数	地上30階 地下2階
建物高さ	約148m
建物用途	事務所、店舗、ホール・カンファレンス、医療施設
延床面積	約84,125㎡
竣工予定	2018年9月
総事業費	約440億円
想定収支	収益 約36億円 EBITDA 約28億円



2016年10月の新南海会館ビル建設工事 現地写真

### 今後の取組み

- ・オフィスエリア(中～高層階)のリーシング強化
- ・工事スケジュールの遵守

# なんばエリアの求心力向上(2/2)

## 流通業の強化

### 2017年3月期 第2四半期

#### ○なんばCITYリニューアル

- ・16年3月に本館、16年4月に南館をリニューアルオープン(約106店舗)
- ・事業費 約25億円(耐震補強工事含む)
- ・本館B2Fでインバウンドニーズ対応。南館は店舗面積の拡大も実施



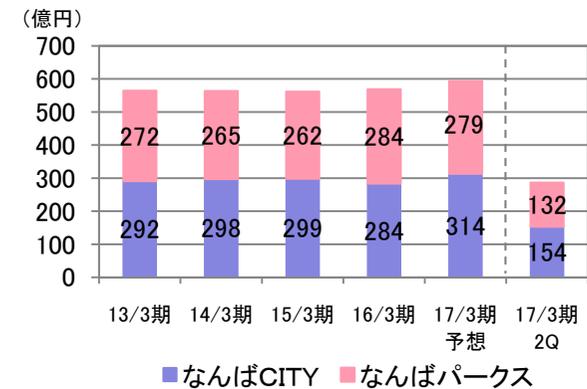
#### ○なんばEKIKANプロジェクト

- ・16年4月 第3期オープン(3店舗)
- ・事業費 約4億円
- ・高架下をリノベーションして趣味性の高い店舗を集積、感度や趣向が似た人々が交流する商業ゾーンを構築



#### ○なんばショッピングセンター売上

- ・なんばCITYがリニューアル後の5~9月で前年比110%と好調
- ・なんばパークスは16/3期リニューアル反動減および今期リニューアル工事のため減収を想定



### 今後の取組み

- ・賃料水準、稼働率の維持向上と継続的なリニューアルの実施
- ・なんばエリアでの不動産投資の推進

# 沿線エリアの魅力創造

## 沿線各エリアの魅力度向上、各駅周辺開発計画の推進

### 2017年3月期 第2四半期

#### ○和歌山市駅活性化計画の推進

- 市街地再開発事業として認可を受け、第2期計画が決定
  - 「(仮称)カンデオホテルズ和歌山」の出店決定(客室数 122室)
  - 公益施設棟への和歌山市民図書館の移転決定

	内容	開業時期	投資規模
第1期	駅施設・オフィス棟	2017年度	約38億円
第2期	ホテル棟・商業棟・公益施設棟・駐車場棟	2018~2019年度	総事業費:約122億円 当社負担:約27億円※

※ 和歌山市負担額、市街地再開発事業に対する補助金額を除いた当社投資額



#### ○情報発信、プロモーション

- ・「真田丸」関連PRが奏功し、九度山駅乗降者数が増加
  - 真田・九度山きっぷ発売、真田赤備え列車の運行 など
- ・住吉大社駅周辺で「HELLO KITTY LOVES♥すみよし」を展開
  - 巨大絵馬の設置、阪堺電気軌道のラッピング電車運行 など



#### ○産学官連携

- ・堺市と、泉北高速鉄道沿線活性化に向けた連携協定を締結。17年1月から堺市が泉北沿線通学定期の一部負担を実施
- ・泉北エリア近隣5大学および堺市と、泉北エリア活性化事業「HIRO-UNI5」を開始

### 今後の取組み

- ・和歌山市駅、泉大津駅周辺開発事業の推進及び新たな拠点駅開発計画の検討
- ・加太線、堺・住吉エリア等の観光振興と自治体や大学と連携した活性化策の展開

# グループ経営基盤の強化(1/2)

## 経営資源の重点配分

2017年3月期 第2四半期

### ○投資計画< 3か年計 1,336億円>

- ・なんばエリアを中心とした不動産投資等の収益拡大投資に資金を配分
- ・車両代替新造、踏切安全装置等の安全・安心向上に資する投資の前倒しを実施

	投資額(3年間)			主な内容		
	16/3実績	17/3	18/3			
収益拡大投資 (M&A含)				・泉北関連投資	物流事業関係、泉ヶ丘駅周辺再開発等	60億円
				・関空・インバウンド関連投資	鉄道施設多言語対応等	21億円
	104億円	361億円	246億円	・なんばエリア関連投資	南海会館ビル建替工事、なんばCITYリニューアル等	309億円
				・沿線エリア活性化関連投資	和歌山市駅活性化、泉大津駅周辺開発等	128億円
				・グループ経営基盤強化関連投資	グループカード統合、新規事業開発等	13億円
計 711億円			・成長投資	不動産賃貸物件取得等	149億円	
			・M&A	大阪府食品流通センター等	31億円	
安全・更新投資	16/3実績	17/3	18/3	・鉄道関連工事	車両新造、駅・高架橋耐震工事、駅務機器更新等	279億円
	221億円	204億円	200億円	・不動産・流通既存施設工事	なんばエリアSC・賃貸ビル改修工事等	135億円
	計 625億円			・その他	グループ会社設備更新投資等	210億円

### 今後の取組み

- ・投資案件を厳選し、50億円程度の削減を図るとともに、低効率資産の圧縮を促進する

# グループ経営基盤の強化(2/2)

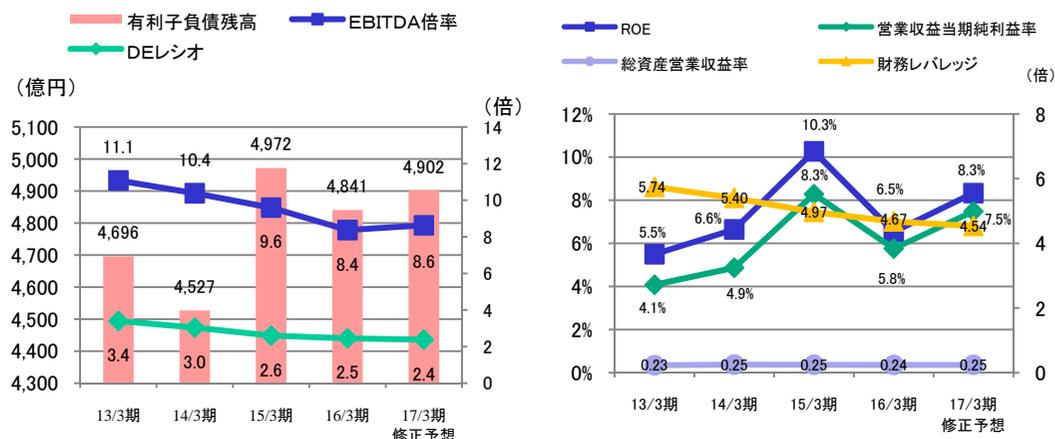
## 財務体質の強化、顧客の囲い込み施策

2017年3月期 第2四半期

### ○財務指標等の推移

収益基盤の強化、財務体質の改善が評価され、格付向上

JCR: BBB+ (ポジティブ) → A- (安定的) R&I: BBB (安定的) → BBB+ (安定的)



※以下の仮定に基づき計算  
 各期末総資産=前期末総資産+各期設備投資-減価償却費  
 各期末自己資本=前期末自己資本+[各期純利益予想-配当(6円前提)]

### ○グループ共通ポイントの導入

グループ内のポイントサービスを統合し、ポイント利用対象施設を拡充(2017年4月～)

Diagram illustrating the 'mp point' program usage across various scenarios:

- 難波駅の駅ナカ店舗で貯める (Accumulate at Namba Station station-side shops)
- なんばパークス・なんばCITYでのお買い物・飲食などで貯める (Accumulate at shopping/dining at Namba Parks/Namba CITY)
- 南海電車・東北高速鉄道の利用で貯める (Accumulate from Nankai Railway/Northeast Shinkansen usage)
- ふだんのお買い物・飲食などでクレジットカードを使って貯める (Accumulate from daily shopping/dining using credit cards)
- ギフトカードで使う (Use as gift cards)
- 難波駅の駅ナカ店舗で使う (Use at Namba Station station-side shops)
- なんばパークス・なんばCITYでのお買い物・飲食などで使う (Use at shopping/dining at Namba Parks/Namba CITY)
- 特急利用で使う (Use for special express services)
- みさき公衆入浴所・グループ商品・浴槽特産品などに交換する (Exchange for Misaki Public Bathhouse/group products/bathhouse specialties)

Physical images of the 'mp point' cards (JCB and VISA) are shown at the bottom.

### 今後の取組み

- ・利益水準の維持向上と低効率資産の圧縮促進により、継続的に財務指標の改善を目指す
- ・中長期的な事業環境変化を見据え、グループ経営基盤強化策を策定・実施していく

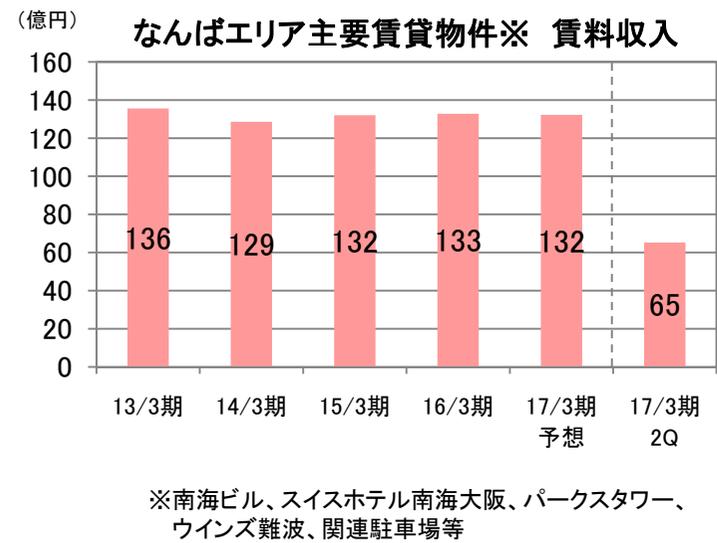
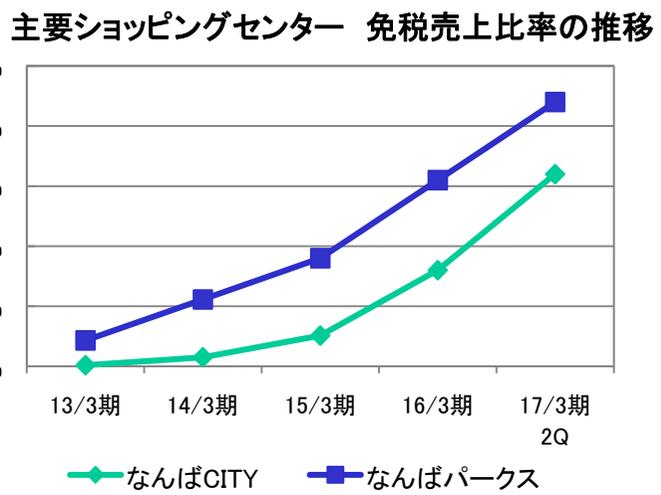
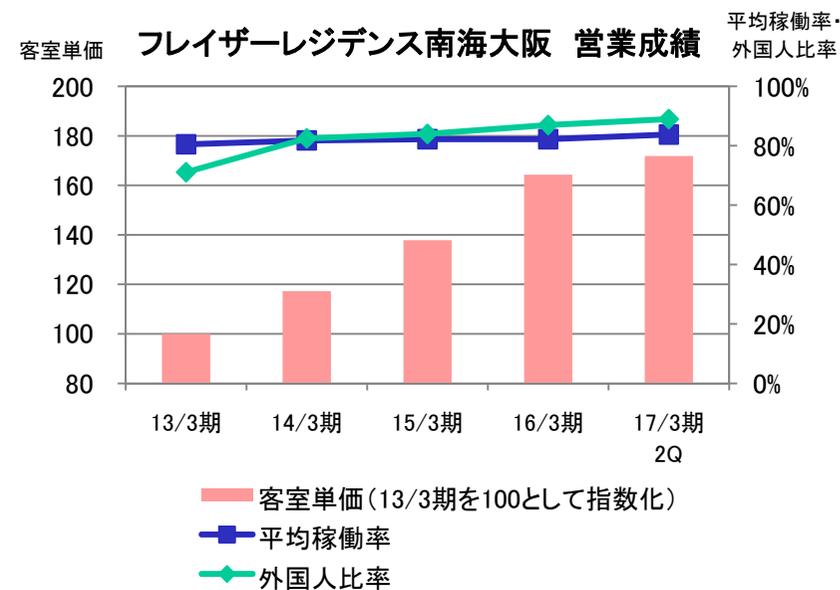
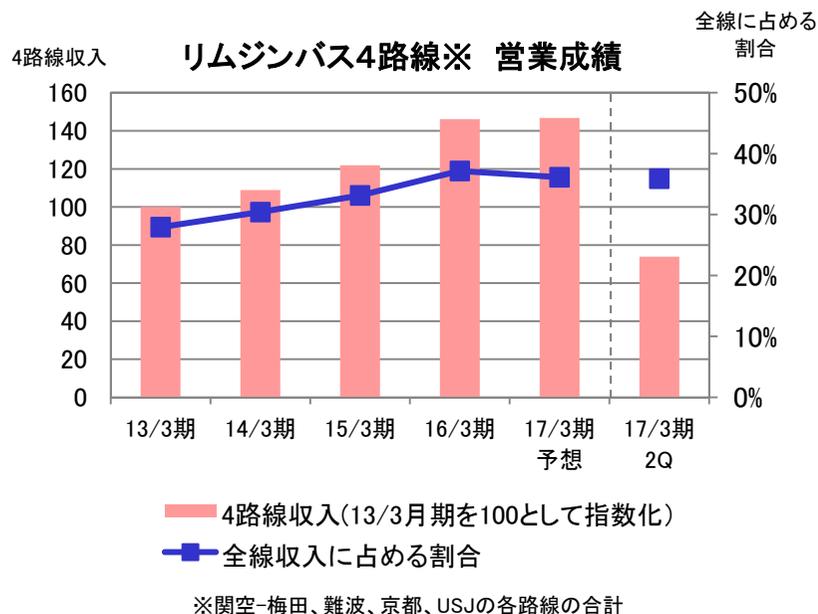
# まとめ

- 業績は堅調だが一時的な費用増で通期は減益。
- インバウンドの落ち着きや海外情勢等、外部環境は弱含み。
- 環境変化への耐性を高めることを目的に数値目標を修正。
- 会館建替を含むなんばへの投資集中と物流開発計画の具体化に注力。

---

## 参考資料

# 【参考】各セグメント参考情報

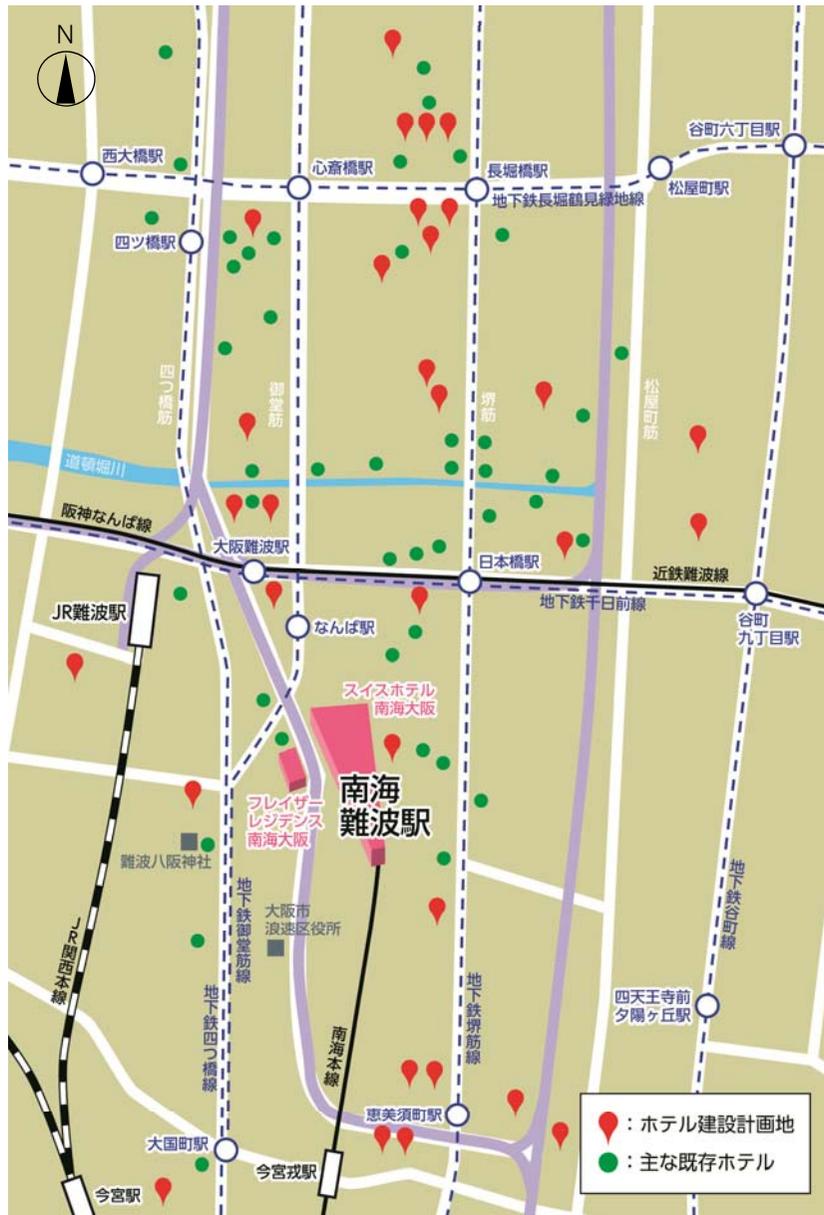




# 【参考】なんばエリアマップ



# 【参考】ミナミエリアのホテル建設計画



ミナミエリアのホテル建設計画

完成時期	棟数	延床面積※
2016年11月	1	1,288㎡
2017年 1月	1	505㎡
2017年 2月	2	2,840㎡
2017年 3月	4	13,458㎡
2017年 4月	2	2,302㎡
2017年 5月	2	5,300㎡
2017年 6月	6	19,837㎡
2017年 7月	2	4,075㎡
2017年 8月	2	7,704㎡
2017年 9月	2	11,184㎡
2017年10月	1	478㎡
2017年11月	1	7,765㎡
2017年12月	1	2,395㎡
2018年 1月	2	7,878㎡
2018年 5月	1	5,164㎡
2019年 7月	1	26,491㎡

※ 延床面積にはホテル以外用途部分を含む

出典：建設データバンク(関西)に基づき弊社作成

# 【参考】ミナミエリアの主要スポットイメージ



- 観光スポット
- 当社施設



心齋橋



法善寺横丁

小説「夫婦善哉」の舞台。苔生した水掛不動尊が有名



道頓堀

ミナミ観光の王道  
グリコのネオン・かに道楽等の巨大看板が立ち並ぶ



商店街



ウラなんば

個性的な飲食店が相次いで出店する、勢いのあるエリア



黒門市場

食べ歩きできるスポットとしてインバウンド人気が定着



なんば



なんばパークス

なんばCITY

なんばEKIKAN

感度の高いテナントの集積で、南への人の流れが生まれている



通天閣・新世界

串カツの本場。隣接エリアにはバックパッカー等が多数宿泊

# IRのお問い合わせ先

## 南海電気鉄道株式会社

〒556-8503 大阪市浪速区敷津東2-1-41

経営政策室 経営企画部(IR担当)

TEL:06-6644-7105 FAX:06-6644-7108

URL:<http://www.nankai.co.jp/>

本資料は投資勧誘を目的とした資料ではありません。あくまでも参考資料であり、正確な決算数値等は決算短信・有価証券報告書等をご参照ください。本資料で記述しております業績予想及び将来予想は、現時点で入手可能な情報に基づいて算定しておりますが、需要動向などの業況の変化、物価変動等、多分に不確実要素を含んでおります。そのため、実際の業績は、様々な要因の変化により業績予想と乖離する場合がありますので、ご承知おきいただきますようお願いいたします。